

第2回東京都北区スポーツ推進計画検討委員会

日 時：令和7年1月8日（水）

午後7時～

場 所：北とびあ7階701会議室

1 開会

会長：今日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、第2回東京都北区スポーツ推進計画検討委員会を開会いたします。本会議の委員の定数は14人ですが、過半数を超えているので、この会議が有効に成立していることをご報告いたします。2番目に報告事項とありますが、その前に資料の確認を事務局からお願いします。

事務局：（資料確認）

2 報告事項

第1回検討委員会の議事要旨について

会長：次に、議題の2番目、報告事項になっておりますが、第1回検討委員会の議事要旨について、事務局で報告する内容はございますか。お読みいただく形でよろしいですか。

事務局：はい。ご覧いただいて、もし訂正したい内容があれば、メール等でご意見をいただければと思います。

会長：事前にご確認いただいて、この場で訂正する部分はございますか。何かありましたら近日中に事務局にご連絡頂戴したいと思います。

3 議題

- (1) 区民アンケート調査結果等について
- (2) スポーツ実施率について
- (3) eスポーツについて

会長：それでは、議題に入ります。3番です。議題に関して、まず(1)区民アンケート調査結果等について、(2)スポーツ実施率について、(3)eスポーツ

について、一括して事務局からご説明願います。

事務局：(資料説明)

会長：委員の皆様、いかがでしょうか。質問、ご意見等いただければと思います。

また、事前にお配りしています計画全体に関係する部分でも良いと思います。スポーツの実施率に関しては、資料3の2ページに、平成30年度と比較して+9.6%、約1割実施率が上がったということですが、これはぬか喜びはできません。アンケートはそもそもスポーツのカテゴリーが増えています。今まではバレーやバスケットなど旧来的なスポーツが並んでいたのが、かなり日常的なウォーキングなども含めスポーツのカテゴリーに入れているので、当然、実施している割合が高くなると判断できるかと思います。これがもし本当の事であればすごいことですが、今後が大変になります。いろいろなスポーツを拾い上げたので、この53%がこの後の計画でどこまで伸びるのか、逆に下がることも考えられます。委員の皆様、eスポーツに関してはいかがでしょうか。この割合に関しては、どのような感覚をお持ちでしょうか。

〇〇委員：33%というのはすごく微妙な数値だというのが正直な感じですが、私は思ったより多い数字だと思いますが、66%の関心がないという人たちの数値から見るとまだまだという感じがします。まだ見えないところでも33%というのは大きいのでしょうか。体育協会の立場で考えると、体育とスポーツというのはどういうふうに捉えればよいのか考えているところです。体育協会の中でも、囲碁などをスポーツと捉えて団体として加盟を認めているところもあります。将来的には、参加する可能性もあるのではないかと感じております。これから先の10年間で大きく評価が決まってくるのではないかと、まだ不確定要素が多々あるというのが率直なところです。それから、実施率の問題ですが、約1割上がったのはすごいことだと思います。実質的には、先生のおっしゃったように新たなスポーツということもあるかと思いますが、まちを見ていると、すぐそばでできるジムが民間でできてきています。そういう民間の努力、行政もいろいろな形で参加を促していますが、身近ですごく簡単にできるスポーツクラブがこの10年間でかなり増えたのではないかと思います。そういったところも貢献しているのではないかと考えております。これは良い傾向だと思っています。

会長：今、お話しがありましたが、33%が関心を持っているということです。また、1年間でeスポーツを実施した経験がある割合が16%ということです。これは、正直言って意外です。もう少し低くなるかと思っていました。ある特定のスポ

ーツで、区民、市民の十数パーセントがやっているスポーツはあまりありません。これは、割合としてかなり高い数字だと判断できるかと思います。当初、北区の計画の中には e スポーツというキーワードはありませんでしたが、東京都も中間の報告の中でそういう文言を入れてありますし、スポーツ庁のホームページを見ても、e スポーツはスポーツだと盛んに宣伝していますので、北区も後れを取らないように、他の区と比べ、北区の計画の中に e スポーツが入っていないとならないような形にさせていただければと個人的に考えております。この場でご意見がなくても、計画等をご覧いただく中でご意見をお寄せいただければと思います。

(4) 区民アンケート調査結果からみる区民のスポーツ活動の現状と課題について

会長：次に参ります。(4) 区民アンケート調査結果からみる区民のスポーツ活動の現状と課題について、事務局からご説明願います。

事務局：(資料説明)

会長：部分的にでも構いませんので、感想やご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。スポーツの実施率の向上について、アンケートの報告書の 12 ページをご覧いただくと、今回の調査でスポーツというものをこのカテゴリで表しています。前回の調査と比べるとかなり多くの競技種目が入っており、最初に「ウォーキング、散歩」が入っています。これは、前回の調査ではありませんでした。これが入ってきて、それも最初に入ってくる部分というのは、かなりステレオタイプに引っ張られます。この部分の実施率が上がったことを表すのが、資料 5 の 7 ページをご覧いただくと、「9 スポーツを行う環境の整備」の 1 行目、どういうところでスポーツを実施していますか、スポーツをしている機会や場所を答えてくださいという回答に、「近くの公園や道路」とあります。これが 15.8% 前回より上昇しています。かなりこの部分に引っ張られてスポーツの実施率が上がっているので、ぬか喜びできないという話をしました。平成 30 年度と比べると確かに 1 割ぐらい上がっていますが、北区はスポーツ実施率が高かったと言う事にはできません。繰り返しになりますが、この先この計画を作るときに同じようなアンケートをしますので、場合によっては下がります。下がることにはかなり本腰を入れてやらなければいけません。区のスポーツ事業への参加率がほとんど変わっていません。何をやっているのだという話です。ここに、〇〇委員がいらっしゃいますが、スポーツ推進委員の認知度がこのくらいの割合でとどまっていることや、総合型地域スポーツクラブを初めて聞い

た方の割合もあります。さらに言うと、小学校の体育館も開放していますが、開放していることすら知らなかったという区民が大勢いらっしゃいます。逆に言うと、やれることはたくさんあります。前回もお話ししましたが、これから中学校の部活の地域移行が始まります。これを本格的にやる中で、学校の体育施設を上手に運用していかないと、スポーツの実施率向上としては下がる傾向があるのではないかと思います。〇〇委員、どうですか。

〇〇委員：11番の結果を数字で見ると残念だというのが正直なところですが、我々にも原因があると感じました。我々スポーツ推進委員自体も、各地域、各団体からの推薦がほとんどですが、ずっとなんとなく推薦され続けてきて活動自体が活性化しない方も見受けられます。そういう活動になりがちな今の推薦のシステムがあります。かたや大学生の委員さんや1期限りで我々が推薦する枠を今期から取り入れたのですが、すごくやる気を持って取り組んでくれている方もいます。ただ、それをどうしていったら良いのか正直難しい問題になっています。参加してくれた区民の皆さんには、こういうスポーツ推進委員の活動を今後もやっていきますと、SNSやホームページでの発信を委員に求めています。取り組んでいない訳ではないですが、数字として残念な感じになっているので、持ち帰ってやっていきたいと思っています。

会長：私は、スポーツもそうですがヘルス、保健の分野のことをやっています。保健推進委員という制度があり、これも同じく地域から選出されています。地域力が減退する中では、これが成立しづらくなってきています。やりたいと手を挙げた人たちに入ってもらえるようなシステムを作ることが必要です。それについて北区は、スポーツボランティアという制度があり、ぜひやりたいという人たちが入っているということなので、そこから推進委員に昇格する仕組みなどを考えなければいけません。

学校の生徒の体力測定の結果が出ていましたが、学校の関係の方、いかがでしょうか。これを見ると、北区は東京都や全国と比べて比較的良いほうですが、マイナスを見ると、小学校5年生の男子も中学校2年生の女子も、なぜ長座体前屈がマイナスなのでしょう。北区は、身体が硬いのでしょうか。

〇〇委員：前回も同じような議論がありました。〇〇委員と校長会や役員会の後にもその話題になり、また、体育科にも聞きましたが、これについては、実際の基準が不明です。

〇〇委員：校長会の中でもこういった結果を共有して皆で話をしますが、全く同じ

話になり、北区の子どもたちは身体が硬いのかという話からスタートしました。理由は正直分かりません。ただ、各学校もいろいろな取り組みをしています。今年も王子第二小学校では、主に体育のアプローチで研究、取り組みをしていて、それをいろいろな学校に発展させていきます。その中で重要な点が、楽しくやりながら、体力の向上やスポーツに親しみを持ってもらおうアプローチがないと、子どもたちが乗ってくれないという話になっていて、そこに特化した取り組みをして、各学校に持ち帰ってもらっています。今後、教育委員会として学校教育の中でも、そういった点について掘り下げていく流れになるのではないかと思います。部活動の話についても、計画を取りまとめる中では、体育協会さんなど様々な団体とお話をしています。部活動の地域展開に関連して子どもたちにアンケートを取ったら「楽しくやりたい」というのがトップにきていました。そこに対して、地域の受け皿を今後必要としていますので、今、地域で活動されているスポーツ団体さんにもアンケートを取っていますが、部活動の地域展開に関しては、自分たちのところでやっても良いというところもあれば、もう少し様子を見たいという話もありました。また、部活動の地域展開を行うにあたって場所をどうするのかも課題になっており、各学校を活動場所として地域活動を展開されているところであれば、各学校がスポーツをやる場所になりますし、屋内施設を活用できるのかについては、利用の状況も見ながら今後展開していくのではないかと話になると思っています。いずれにしても、この計画とは連動しながら進めていく必要があると教育委員会として思っています。

会長：〇〇委員、部活の地域移行に関して コメントをいただけますか。

〇〇委員：11 番のスポーツを支える人材の育成・確保が先なのだろうと思います。人材もそうですが場所の確保も当然です。ソフトとハード両方から確保していかないと、スポーツ実施率も上がらないし、子どもたちが楽しく部活動ができないということになると思います。大学の分野でこれを見て非常に反省していますが、本来スポーツを支える人材の育成というのは、大学が行っていなければいけません。するスポーツを支える人材、いわゆるコーチング系など、そういう人たちは大学で育成しています。あと、スポーツ系、いわゆるビジネスマンも 2000 年代から拡大が取り組まれていて、スポーツビジネスをやる人たちも増えています。ただ、残念なことにスポーツ推進委員のような公共、ソーシャルスポーツを育てる大学がまだ日本にはないので、それが難しいところになっていると、これを見て思いました。ただ、それを待っていることは難しいので、せつかくこれが分かったのであれば、北区さんと東洋大学さんなど周りの大学

と連携しながら、スポーツ人材の育成を取り組むような事業を今回の計画の中に検討してみるのも一つのアイデアではないか。その人たちが北区の総合型地域スポーツクラブや部活動の支援をやってくれるようになれば、全国に先駆ける事例として作っていくことも可能だと思っています。私の夢と感想です。

会長：人材育成の話がでましたが、東洋大学では、準備はできております。今、多様なスポーツという話もありましたが、一つ事例を紹介したいと思います。11月の下旬に、東洋大学の二つのゼミと北区の保健のセクションと共催で「レク de HELSP0」という、マルチスポーツイベントを、アリーナを使い、八つのレクリエーションとそれを自由に楽しめるブース、子どもから高齢者まですべての方が体力測定するブースを作って、300名限定で募集しました。1週間で応募が600名近くありました。ニーズはありますので、それに応じて多様なスポーツが展開できるかにかかっていると思います。

短時間での説明でしたので、ご意見が出ない部分もあるかと思いますが、この場ではアンケートの解説と現状と課題のまとめに関しては、ご理解いただいたことにさせていただきます。この取りまとめに対してご意見等があれば、事務局にお寄せいただきたいと思います。

(5) 課題のまとめと今後の方向性について

会長：では、議題（5）課題のまとめと今後の方向性について、事務局からお願いいたします。

事務局：(資料説明)

会長：感想でも結構ですのでご意見等ありましたらお願いします。

〇〇委員：課題とまとめについて、先ほどのアンケートから抽出されて、一旦こういう形でまとめられたと思います。これをさらにソフト面とハード面でどうまとめるかが今回のカギになると思います。ソフト面は特に、意見が分かれるところですが、子どもが楽しむ、成人、子育て、高齢者というのをまるきり別の種目設定をしていくのか、共通する種目を何等か想定するのかというのが、どこかで求められることではないか。北区として皆でやることを作り、それを軸に展開するのか、そういうことはせず、今までのようにそれぞれのスポーツ種目をそれぞれやってくださいという形にするのか、大きな戦略の問題としてあるかと思っています。

会長：副会長、いかがですか。

副会長：私の関心は、障害者スポーツがメインなので、現状と課題にもある障害者スポーツへの関心が低下している部分に関しては、オリパラのレガシーだったり、体験会が多かったりしたのが落ち着いてきてということかもしれませんが、関心度で言うと、初めて見るとか、珍しくて関心が高まるという部分とか、それが身近になってきて関心ではなく当たり前になってくる部分の両方あると思います。この辺は、今後どういうふうに移していかかというのに着目したほうが良いのではないかと考えています。あと、現状と課題のところを見ると、先ほど会長から指摘されたように、家の中や公園、身近なところでスポーツをしたい、公立の施設でスポーツをしたい、スポーツ推進委員、支えるボランティアの方もそうですが、キーワードとして身近でという、アクセシビリティの部分と、知らなかったなど情報が行き渡っていないところが、今後のポイントなのではないかと考えています。ものや人が活用できるということが、今後の方向性に生きてくると良いと思っています。eスポーツですが、東京都のeスポーツのところにあった通り、スポーツへの関心度が高まるきっかけだったり、フレイルの予防だったり、一般の興味の普及、活動量の向上に結びついてきます。あとは、子どもたちは楽しくスポーツをしたいというところには、eスポーツの可能性が大きいのではないかと考えています。探り探りというよりは、使えるところを使って広げていくという形で推進していくと良いのではないかと考えました。

会長：その他、ご意見、感想はありますか。これからこの結果をもとに計画を組み立てていく訳ですが、スポーツの関心や、体育がスポーツになるなどありますが、オリンピックから若者が離れないようにアーバンスポーツやエクストリームスポーツがどんどん入っていきつつありますし、スポーツ庁はスポーツの実施率を上げたり、スポーツ離れしないようにeスポーツを取り入れたりということが起きているにもかかわらず、行政的な計画はずっと同じような文言になっています。ここは、我々もイノベティブな感覚を持ってやっていかなければ、eスポーツを計画の文言に入れるか入れないかを議論しているほうがおかしくて、それが当たり前で、それをどうやって推進していこうかという議論にならないといけないと思います。今、副会長からもお話があった通り、子どもが楽しみたいということから考えると、eスポーツは正しくそういう感じがします。あとは、いろいろな種目の中で年齢を超えて競えるのはこれだと思います。太鼓の達人だったら、子どもと高齢者が一緒にできたりということがある訳です。これは、北区として実施していくかという文言が計画の中にあってしかるべき

だと感じます。

(6) 第3回検討委員会の日程について

会長：では、(6) 第3回検討委員会の日程について、事務局よりご説明願います。

事務局：(次回日程の説明)

会長：議題としてはここまでですが、全体を通して何かありますか。

4 その他

会長：それでは、その他、事務局からお願いいたします。

事務局：(第1回検討委員会からの補足説明) 第1回検討委員会の中で、今回の計画改定については、子どもの意見を反映させた計画改定をするとご説明いたしました。第1回検討委員会の時点で、こういったタイミングで、こういった形で実施するかご説明させていただいた時点では、来年度、中間まとめ案が出来上がった際、パブリックコメントを実施いたしますが、その際に子ども向けのパブリックコメントを実施する予定としており、北区立の小学校1年生から中学校3年生までに配布している学習用端末、「きたコン」を使い、アンケート調査を実施しようかと考えておりました。その後、本日に至るまで確認等をしたところ、実際に先行していろいろな計画が策定されておりますが、先行して実施している部署が「きたコン」、学習用端末を使ってのアンケートを実施しておらず、案内をして、北区のホームページのリンクを貼り、北区のホームページに飛んでいただき、そこで自由意見を書いてもらうというやり方を複数の部署で実施していることが分かりました。また、パブリックコメントを管轄している広報課に、このやり方が正しいかどうか確認を取ったのですが、パブリックコメントは自由意見を書いてもらうことが正しいやり方ということで、アンケート調査はそぐわないということが分かりました。我々も、来年度子どもに向けた意見聴取でパブリックコメントを実施する際は、まず「きたコン」、いわゆる学習用端末を使って、パブリックコメントの実施をご案内し、その中に北区のホームページのリンクを貼り、そちらに飛んでいただき入力フォームに自由意見を書いていただくという形で、子どもたちの意見を取り入れた計画としていきたいと考えております。

会長：これをもって、第2回東京都北区スポーツ推進計画検討委員会を閉じたいと思います。ありがとうございました。